

＜バイオセラピー学科＞（認定課程：高一種免（農業））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	英語、スポーツ・レクリエーション(一)、健康福祉概論、日本国憲法等を学んで幅広い教養力を培うとともに、農学原論、農業ビジネスデザイン(一)や農業実習(一)を通して農学の原理を学び農業教員としての適性を確認する。
	後期	農業ビジネスデザイン(二)、農業実習(二)の科目を通じて、前期で学んだ農学の基本的知識を深化させるとともに、実践的な農業技術を身に付ける。また、人間植物関係学ならびに動物介在療法学(一)といった科目を通じてバイオセラピー学の基本体系とその概念について理解を深める。
2年次	前期	家畜生理・生体機構、家畜管理学、家畜栄養学、介在療法動物論を通じた畜産と動物活用に関する基礎技術、ならびに社会園芸学、ハーブの育て方といった栽培等に関する基礎技術を身につける。
	後期	都市園芸学、植物介在療法学(二)、生物介在療法評といった科目の学びから、農学と農業技術を健康福祉分野へと応用できる視点を持ち、それについて熟考できる態度を身につける。またこれらの研究方法を学び、農業教員として必要な科学的手法知識を再確認する。
3年次	前期	具体的な生物活用法を修得することで、農学が健康と福祉の領域において果たす役割を理解するとともに、農業教員として必要となる指導法を身に付ける。
	後期	引き続き健康、福祉領域への農学の応用を考え、その研究体系の学びを通じた教育指導力を培う。また、これまでに習得した知識および技術を総括して教育実習に備える。
4年次	前期	農学の人の健康や福祉分野等への応用をはじめとした新たな社会貢献の在り方について模索するテーマを定め、実験・調査を進める。教育実習を通して、大学で構築した知識と修得した技術について確認し、その実地における指導経験から教師としての資質を確認する。
	後期	学び得た専門領域の社会的応用についての総括から、人、社会、教育における諸問題に対して、バイオセラピー学独自の生物活用の視点を取り入れた問題解決方法を熟慮し、自身の農業教師としての資質と態度を確立する。